

新善光寺 寺報 北 縁

2023年1月 Vol. 51

# ほくえん



高英

## 令和5年 年頭所感

お檀家の皆さまにおかれましては、清々しく新年を迎えられたことと存じ上げます。常日頃から当山の護持運営に、志をたむけてくださり、感謝申し上げます。

さて、去年の冬は、当地が大雪にみまわれ難儀しました。今年はどうなるのだろうか、心配になります。また、世の中の情勢を聞くと、不穏な雰囲気、これからどうなっていくのだろうかと不安になってしまいます。しかしながら、日常の出来事にしても、世界の動向にしても、この先のまだわからないことを思い悩むより、今を切に生きてゆくことが、私たちの歩むべき道なのだと感じます。芝増上寺の八十二世であられた椎尾弁匡上人の次のお歌が心に染みます。「時はいまところあしもと そのことに うちこむいのち とわの御命<sup>みいのち</sup>」。未来を求め過ぎることなく、過去にとらわれることなく、今を大切に生きる姿に、感銘をおぼえます。

住職 太田 眞琴



婦人会の方々との集合写真（法然上人御忌日法要において）

## 団体参拝旅行募集しています

4月5～7日までの増上寺を含む徳川家ゆかりの寺院を巡る旅行ですが、まだ申込を受け付けております。4、5ページに寺院の紹介を載せておりますので参考にいただければと思います。新善光寺からは副住職と立花が、また慈啓会の看護師も同行いたします。

行きは新善光寺に集合してバスで新千歳空港に向かい、帰りも空港からお寺までバスで戻ってくる予定です。

桜舞う季節に是非とも東京へ一緒に行きましょう。

参加希望の方には申込用紙をお送りします。どうぞよろしくお願いたします。



## 写経してみませんか？

毎月第4土曜日におこなっている仏教講座ですが、もうまもなく80回目を迎えるとしております。

写経をメインにしております、今年もその方向でいきます。

写経はお手本に半紙を重ねて上からなぞるか、直接薄くお手本を印刷している紙の二種類から選んでいただけます。

写経後は一緒にお参りして、お菓子をいただきながらの解説タイムになっております。

年齢層はバラバラで、お檀家様に限らず色々な方にご参加いただいております。事前の申込や道具は不要ですので、是非お気軽に来ていただければと思います。



次回 2月25日(土) 14時 次々回 3月25日(土) 14時

## 浄土宗の総・大本山について

### 増上寺 (2 回目)

今回は増上寺の歴史・由来・見どころといったところを紹介しました。今回は見どころで述べた三門と徳川家墓所について、実際に行ってきましたのでお知らせしていきます。

#### 三門

昨年10月から11月にかけて11年ぶりの内部の特別公開がありました。正式には三解脱門と呼ばれ、「むさぼり・いかり・おろかさ」という煩惱から解脱した安らぎの世界“極楽浄土”へ往生を願う空間が広がっております。

専用の階段で登っていき、上層部にたどり着いた先には釈迦三尊像と十六羅漢像が安置されており、その壮観さには、おもわず手を合わせてしまうほどでした。

楼上からは外の街並みも見渡すことができ、江戸時代は海まで見えたそうです。現在は高いビルが建っていますが、400年前の仏像の中でその時代の空気を感じることができました。



### 徳川将軍家墓所

増上寺には二代将軍秀忠公を含む六名の歴代将軍の墓所、そして墓所には各公の正室・側室の墓も設けられております。

東京タワーを背景にした墓所は、都心の中でひととき静寂さもあり、なんとも言われぬ雰囲気漂います。

また、三門から墓所へ向かう途中には子供の成長と健康を願って安置されたお地蔵さんが並んでいて、その純粋なお顔つきに心が安らぎました。



### 番外編

4月の団体参拝旅行で行く、もう2つの寺院も増上寺や徳川家に縁がありますので、ここで紹介したいと思います。

#### でんづういん 傳通院

文京区は小石川にあり、1415年に浄土宗七祖了譽が開いたお寺で、当初は「寿経寺」と呼ばれていました。1602年に家康公の生母「於大の方」が亡くなられ、法名を「傳通院殿蓉譽光岳智香大禪定尼」と号し寿経寺を菩提寺としたことから「傳通院」と呼ばれるようになりました。文豪の永井荷風はこの付近で生まれ育ち、その思い出を随筆で記しております。



#### じょうしんじ 浄真寺

世田谷区奥沢にあり、<sup>くほんぶつ</sup>九品仏とも呼ばれております。徳川幕府より奥沢城跡を賜り、1678年に創建されました。3つの阿弥陀堂（上品堂・中品堂・下品堂）に3体の阿弥陀如来像が祀られていることが九品仏の由縁です。境内地が広くて四季折々を感じることができるのもポイントです。



シリーズ 仏事のおはなし

仏さまのおはなし ⑤

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。新しい一年が皆様にとって善い年となります様、寺内一同お祈りいたします。

おはなしの方は、前回までにお釈迦さまのご生涯とそのお悟りについてお話ししました。今回は、そのお釈迦さまをお祀りしている有名なお寺をご紹介しますと思います。

しゃかによらい  
釈迦如来 ⑤

浄土宗ではご本尊は「阿弥陀如来（仏）」です。ですからご家庭のお仏壇のご本尊も阿弥陀さまであり、故にお念仏は「南無阿弥陀仏」でもあります。しかし、このお念仏のみ教えをお説きになったのはまぎれもなくお釈迦さまです。お釈迦さまのお言葉、「お経」の中に阿弥陀さまの有難い功德が説かれているからこそ先人たちはお念仏のみ教えを信仰されてきたのです。

それ故に実はお釈迦さまをお参りする事は、浄土宗信徒にとっても大切なことだといえるでしょう。浄土宗の総本山、京都の知恩院の中にもちゃんとお釈迦さまはお祀りされていますし、今回団体参拝旅行のご案内をしている東京の大本山 増上寺にもしっかりとお祀りしています。今回は国宝のお釈迦のお像をお祀りするお寺をご紹介しますと思います。

清涼寺の「釈迦如来立像・像内納入品一切」

清涼寺は京都市右京区嵯峨にある浄土宗の名刹で「嵯峨の釈迦堂」の愛称で知られています。嵯峨天皇の皇子で「源氏物語」の光源氏のモデルとされる左大臣・源融の別荘・栖霞観のあった地に建立された棲霞寺が前身と言われるお寺です。その後、東大寺の僧・奄然が清涼寺の建立を計画し、弟子の盛算が棲霞寺の釈迦堂に、奄然が宋より持ち帰った釈迦如来立像を安置したことにより「五台山 清涼寺」と名称が改変されました。この釈迦如来立像は、奄然が宋に留学時代、紀元前5～6世紀インドの優填王がお釈迦さまの在世中に



清涼寺の釈迦如来立像

梅檀せんだんの木で37歳のお姿を彫ったというお像を模倣して造らせたものであり、インドから宋に、さらに日本へと伝来したことから「三国伝来の釈迦像さんごくでんらい」と呼ばれています。またお釈迦さまに生き写しとされ「生身の釈迦」としても有名で、このお像のお顔に完成の仏牙を入れたとき、一点から血が滲んだためだと伝えられています。さらに胎内には絹で作った五臓六腑が収められ、仏像本体とともに国宝に指定されています。

#### 東大寺の「誕生釈迦仏立像・銅造灌仏盤」

東大寺は「奈良の大仏さま」で有名な奈良市にある華嚴宗の大本山です。お釈迦さまが誕生されたときのお姿を像にしたのを「誕生仏」と言いますが、東大寺の誕生仏は天平勝宝4年（752年）に大仏の開眼供養が行われる際に造られたという説があります。

#### 深大寺の「釈迦如来倚像にょらいいぞう」

深大寺は東京都調布市にある天台宗の別格本山です。東京都では浅草の浅草寺に次ぐ古い名刹であるいわれ、釈迦堂に安置される「釈迦如来倚像にょらいいぞう」は東日本最古の国宝釈迦如来像といわれ、「白鳳仏」の通称で呼ばれています。飛鳥時代後期（白鳳時代）の仏像です。倚像いぞうは、椅子に腰掛けたポーズの像を指します。



東大寺の誕生仏



深大寺の釈迦如来倚像

ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話③②



## 〈新年に感ずること〉

こまきね きんしょう  
駒木根 琴生

令和5年をむかえた。年末、私は带状疱疹になり、激痛の体験だった。耐えられず31日の早朝、当番病院へ走った。すでに玄関に溢れんばかりの人々だ。ほとんど高齢者の光景に長寿国日本を感じた。各人の不安が集い、会話もない重い空気に、この一年の世相を重ねた。順番を待つ間、痛さに精神まで奪われたのか、自分の泥だらけの長靴を睨んでいた。

新型コロナウイルスが発生して3年余り、一向に収束が感じられない。この厳しさは、法然上人の浄土宗開宗の鎌倉時代に相似する。鴨長明の『方丈記』に内乱・殺生に加え、飢饉・疫病も続き、都の3分の1が消滅したと記されている。中でも、弱い立場の民衆は、諦め切っていた。そんな状況を見捨てる法然上人ではなく、全ての人々が救われる道を捜す覚悟で学び続けた。善導大師の専修念仏「一心に念仏すべし」の道に出会い、浄土宗開宗に至った。法然上人43歳だ。因みに、来年は、開宗850年の記念の年だ。南無阿弥陀仏の称名念仏の輪を広げ、報恩に応えたい。鎌倉時代の人々と同様、阿弥陀仏の本願念仏を信じ、乗り越えたい。

さて、日本は川が多いと云われて、それに架かる橋も多い。橋と云えば、二つの世界、此岸（私の住む此の世）と彼岸（亡くなった人が逝く西方浄土）の境界線・接点でもある。また、過去と現在を結びつける橋でもある。私の亡き長男が生まれた釧路川の幣舞橋の夕景の美しさは、世界三大に選ばれた。次に、能・観世流の出し物で有名な東京の隅田川である。人買いにさらわれた13歳の息子を探し求め、心が狂乱になりながらも、お念仏に因り、再会出来た母と子の物語。幸い一度、東京国立能楽堂で観劇できた。亡き長男も13歳だった。

本年5月11日より総本山知恩院輪番（法話の担当）を勤めさせて頂ける。通算6回目は有難い。隅田川を嘔みしめて、お念仏で救われた母の私を表現したい。

2019年、ドイツのメルケル前首相が来日し、日本があらゆる分野で女性が少ない事実に驚きつつ、女性進出を促す講演をした。世の例に漏れず、宗教界も尼僧は少ない。平成15年に拝命した知恩院布教師も、総数500人の内、尼僧は10人である。尼僧住職の寺院は、極々少ない。そんな現況下に鑑み「女性教師の会・ふたはたの会」が誕生した。もうひとふんばり、頑張ってみよう。

人と人との距離感が近づいて、笑顔が多い優しさ溢れる一年でありますように

（合掌）

仏法も花も盛りの知恩院



## 信州善光寺さんの石畳にこめられた祈り

信州長野の善光寺さんにお参りすると、参道の石畳がとても磨かれていてつるつるしていることに気づきます。これは、多くの人が善光寺如来さまにお会いするため、往来し、知らず知らずのうちに石の表面が磨かれたのでしょう。

この石畳は、正徳4（1714）年に江戸中橋上槓町（現在の日本橋3丁目あたり）の豪商であった大竹屋平兵衛さんが寄進したものです。その昔、石畳がなかった頃、時に道がぬかるんだりして、参詣者は足元の悪い中をお参りしていたそうです。そのことを案じた平兵衛さんは、如来さまにお会いするための歩みをたやすくするため、ひいては、仏法の歩みを確かなものにするために、この参道を整えたのでした。

さて、平兵衛さんが善光寺如来さまとご縁を結ぶきっかけになったエピソードが、次のように伝えられています。平兵衛さんが江戸で商売をしていた頃、息子さんがいましたが、店の手伝いをするわけでもなく、毎日毎日遊びほうけて放蕩三昧の日々でした。そんな息子さんに手を焼いていた平兵衛さん。ある夜のことです。平兵衛さんも、家の人々も寝しずまっていた時、屋敷のなかでなにやら物音がします。不審に感じ槍を手にし、“盗人だ”と思って一突き……。灯りをつけて、その盗人の顔を見ると、なんと我が息子ではないですか。平兵衛さんは、“なんということになってしまったんだ”と悔やんでも悔やみきれません。息子さんの菩提を弔うため、平兵衛さんは善光寺如来さまに会いに来たのです。その後、平兵衛さんは出家し、道専と名乗ったということです。善光寺山内の向仏坊墓所に平兵衛さんのお墓があります。

このように聴くと、善光寺をお参りする時、この石畳がより一層趣きのあるように感じます。善光寺如来さまは、私たちがいまだ喜怒哀楽のあらゆる感情を受けとめてくださいます。今も昔も、如来さまのやさしさに触れることのできるこの参道が、きらきらとすてきに輝いて見えました。 〈文：立花 俊輔〉



昨年のご開帳時



今年の1月2日

## じょどうじょう 璽書道場に行ってきました。

昨年11月より総本山知恩院で開かれた璽書道場に行ってきました。

この道場は浄土宗の奥義を授かるための行で、浄土宗僧侶となった者が一定期間の後に入行を許されます。毎年開かれていて、数年前より行こうと考えておりましたがコロナ禍もあって今回になりました。

道場に入行する前日にPCR検査をしてホテルに泊まり、翌日知恩院に向かいました。

携帯電話や時計などの私物は没収され、通信機器のない日々には若干不安を覚えました。食事は朝昼晩の三食とも精進料理ですが、栄養素やカロリーは計算されており普段の食生活とは打って変わり、肌ツヤが良くなった気がします。

20代から60代までの総勢34名と一緒に寝食を共にし、おつとめ（法要）と講義のみの生活は純粹に自分自身に向き合える貴重な時間となりました。当初は、あと何日と考えておりましたが最後の方は、もう少しこの道場生活をおくりたいと名残り惜しくなりました。

これにより在家の方々に戒を授ける立場の資格を得、また五重相伝（浄土宗で最も重要な教えを伝える法要）をすることができるようになりました。いつか新善光寺でも五重相伝が開けるように今後ますます精進していきたいと思っております。  
(副住職：太田真海)



## 《清璋寺だより》

新年の1月3日に恒例の「修正会ならびに新春大祈願法要」をおこないました。当日は天候も良く多くの参拝者の方々と共々にお念仏をおとなえしました。

今年も皆様にとってより良い1年となることを願っております。どうぞ、今年もよろしくお願いいたします。



### 2023年清璋寺法要予定

- ・春彼岸法要：3月19日（日）
- ・お盆の法要：8月11日（金・祝）
- ・秋彼岸法要：9月24日（日）

## 《納骨堂のご案内》

伝統的なタイプから、花びら舞うデザインの現代調なものまで幅広くご用意があります。段々と空きが少なくなっておりますので、もしご希望の方がおられればお気軽にお問い合わせください。



西縁山 清璋寺 札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目19-35

**TEL 011-668-5110**

しろいし幼稚園から

## しろいし幼稚園の教育について

今回は、いま一度新善光寺学園しろいし幼稚園の教育・運営方針について説明していきたいと思います。

建学精神は和顔愛語<sup>わけんあいご</sup>で仏教には「和顔愛語にして、意を先にして承問<sup>じょうもん</sup>す」という文言があります。これは「表情はやわらかく、言葉はやさしく、相手のところを汲み取ってよく受け入れる」をいう意味で、しろいし幼稚園に関わる全ての人が、この精神を胸にそれぞれの人生を豊かに生きていくことを願っています。

教育目標は4つあります。

- あかるく ～ 自分の好きな遊びを見つけ、自分から遊び込める子ども  
(自己発揮)
- ただしく ～ 自分の心と向き合える子ども  
(規範意識)
- なかよく ～ 仲間の個性を認め合える子ども  
(仲間意識)
- やさしく ～ 相手の気持ちを慮(おもんぱか)れる子ども  
(思いやり)



子ども達一人ひとりには、それぞれに個性があり、同じ学年でも月齢等によって言葉や理解などの発達段階は様々な状況にあります。そして子どもが成長発達していくプロセスに、早い遅いはあれど、一段抜きや飛び級はあり得ません。だからこそ、その子その子に合わせた丁寧な関わりや援助を心がけます。

0～2歳の時期は、まだ絶対的に大人の養護(自分でできないことを大人が代わりにしてあげること)が必要です。しかし徐々に食事や排泄が自分でできるようになり、自我が芽生え「じぶん」を持ち始める満3歳頃から、少しずつだけれども大人の手を離れ、子どもは「じぶんの人生」を歩み始めます。子どもは生れながらにしてその人格を尊重され、誰のものでもない「じぶんの人生」を生きる権利を持っています。この時期から少しずつ教育が始まり、徐々に養護と教育の比率が教育にシフトしていきます。

教育とは「自分でできること」を増やしていくことです。「自分でできる」とは、大人の権力で「やらされてできる」ことではなく、子どもが自らの意思と自らの力で「できる」ようになることです。しかし子どもがすぐに「自分でできる」ようになるわけではありません。「自分でできる」までには段階とプロセスがあります。そしてそのプロセスには、

「やりたい・なりたい」という子ども自身の「主体的なエネルギー」と「自分で考える機会(成功・失敗・葛藤)」が必要であり、これらを本園の教育の要としています。



学校法人新善光寺学園 **しろいし幼稚園**

〒003-0028 札幌市白石区平和通1丁目南6番16号 URL [siroisi-pippara.ed.jp](http://siroisi-pippara.ed.jp)  
TEL 011-861-4426 FAX 011-866-0707 E-mail [siroisi-pippara@cyber.ocn.ne.jp](mailto:siroisi-pippara@cyber.ocn.ne.jp)

慈啓会から

## 慈啓会養護老人ホーム

当施設は大正 14（1925）年、藻岩山の麓に札幌養老院として開設以来 98 年余が経ち、昭和 60（1985）年に現養護老人ホームとして建築後も 38 年が経過。途中の大規模修繕を経て、現在に至っております。

建物は、鉄筋コンクリート造り 4 階建て、定員 80 名の全室個室の施設です。入所の基準は原則 65 歳以上、ご家族や住宅の状況などから在宅生活が困難な方や、低所得世帯の方が市町村長の措置により入所できます。退所についても行政が決定します。

また、平成 18（2006）年度からは、入所中に介護が必要な状態となった際には介護保険による在宅サービスの利用も可能となりました。

入所の基準を満たしている方で入所をご希望される方は、ぜひ、地方自治体（お住まいの市区町村）の担当課へ入所申込みをいただければと思います。

また、入所の手続き等不明な点がございましたら、直接施設へお問い合わせいただいても結構ですので、お気軽にご連絡ください。

施設の近況についてですが、ここ数年続いておりますコロナ禍のなか、感染予防対策のためご入所の皆様方やご家族の皆様方に、ご面会や外出に関わるいくつかのご不便な制限をかけさせていただいており、大変申し訳なく感じているところであります。

徐々にではありますが規制緩和を繰り返しながらストレスのない生活を送れる環境づくりに努めてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いたします。

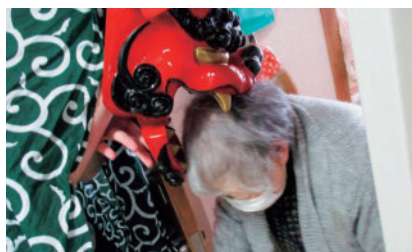
今回は、感染対策のうえ、年末年始に実施した行事写真をいくつか掲載させていただきますのでお楽しみいただければと存じます。



クリスマス会



書初め



獅子舞



書初め

札幌慈啓会総合相談室のご案内 ☎ 0120-83-8291

専門スタッフが保健・医療・福祉などのご相談に応じます。

お電話受付時間／8:45～17:00(土日・祝は除く)  
E-mail info-jk@sapporojikeikai.or.jp

相談無料

当山のお仏像を紹介します⑧ ぜんどうだいし  
**善導大師座像**

本堂の御本尊にむかって右側（東側）におられるのが、この善導大師です。善導大師（613～681）は、中国唐代のお坊さまで、声に出すお念仏（南無阿弥陀仏と称えること）が勝れた行であることをお示しくされました。浄土宗の宗祖である法然上人（1133～1212）は、善導大師を深く尊び、お慕いました。その心からか、法然上人は、夢の中で善導大師とお会いします。その時の善導大師のお姿が、半金色つまり腰から下が金色だったといひます。このお像もその様子を表しています。また、口元を拝見すると歯が見えます。これは、つねにお念仏を申していることを表現しています。



## あたりまえが ありがたい

同封の年回忌表に書かれている言葉を解説します。

法然上人は、一紙小消息の中で「受け難き人身を受けて、会い難き本願に会いて、おこがた道心をおこして、離れ難き輪廻の里を離れて、生まれ難き浄土に往生せんこと、悦びの中の悦びなり」とお示しであります。“ありがたい”という言葉は、有り難いとも書きます。そうなることが難しい、稀有なことだという意味です。人の身として今、生を受けていることは、決して当たり前ではないと頂戴し、この命が終わった後は、必ずお浄土に参らせていただけることを悦びとする、これが我々お念仏者の尊いところです。



## 北縁 なんでも Q & A

新年あけましておめでとうございます。

本稿を編集しているのは昨年末の時期ですが、大晦日の除夜の鐘を勤め何事もなく新しい年を迎えていると思います。様々な国内外の情勢に翻弄される日々ですが、少しでも皆さんの心に寄り添える紙面にしよう精進してまいりたいと存じます。

本年も皆さまのご感想等、ご投稿をよろしくお願いいたします。

### Q 観音さまへのお経はどの様なお経ですか。

A 観音さまは「観世音菩薩」「観自在菩薩」など数多の呼称や「千手」「十一面」などの数多のお姿がある菩薩さまです。「所願成就（様々な願い事がかなう）」という現世利益があるといわれ、日本では非常に信仰を集めている仏さまです。

観音さまへの信仰によって読誦するお経は、一般的に「観音経」という經典をお読みします。このお経は、『観音菩薩の名前を一心に聞き称え、あらゆる厄難・災難より救われる』と説く内容となっています。

浄土教では阿弥陀さまの脇侍としての役割を説くことが多い観音さまですが、観音さまとしてのご利益も大変優れていることから、この観音経は多くの宗派で読まれています。

### Q 前号で旅行の案内がありましたが、一人でも参加できるのでしょうか。

A 「北縁」第50号で東京・増上寺への団体参拝旅行のご案内をいたしました。コロナ禍前は数年に一度、京都へ法然上人の大遠忌や長野 善光寺御開帳といった何かとその時のテーマをもってお檀家の皆さんと共に各名刹へお参りさせていただきました。今回は大本山 増上寺で毎年執り行われている「御忌大会」のお導師に札幌のご寺院の住職が勤めることになったご縁で、皆さんと一緒に参りに伺いましょう、という企画です。

さて、確かにおひとりで参加をされるには不安もあろうかと思えます。過去の旅行では、おひとりで参加された方々も旅行が終わるころには皆さんお友達になられているようでした。これは一つの目的に皆さんで参加するというのが一体感を生み出すのかもしれませんが、またお体のどこかが不自由であっても、引率の僧侶や旅行会社のスタッフがきちんとお助けします。持病があっても不安な方でも、参加を希望される方のために医療従事者（看護師）が同行することになっていますので、有事の時は適切な対応ができます。また新善光寺の団参（＝団体参拝旅行）では旅行中のお食事はすべてプランの中で準備しています。おひとりでも皆さんと一緒にできますので淋しいことはないと思います。中々ない体験ができると思いますので、おひとりであっても安心してご参加ください。

### 〈みんなで除夜の鐘をつきました〉

12月31日の大晦日、昨年に続いて一般の参加者も含めて除夜の鐘をおこないました。

今回は昨年と比べて外国人の方が非常に多かったように思いました。

また、近隣寺院（東本願寺札幌別院、成田山新栄寺、玉宝禅寺、永照寺）と協力してスタンプラリーも同時開催し、ススキノのお寺が賑わった1日でもありました。



### 東京別院 霊源寺から

10月に東京近郊にお住まいの新善光寺のお檀家様の葬儀が霊源寺でおこなわれ、副住職が行ってまいりました。霊源寺は火葬場の真向かいという立地面から多くのお葬儀がおこなわれております。また一周忌や三回忌などの法事もおこなうことができます。

東京近郊でお参りのご希望があれば何なりとご相談いただければと思います。



**大光山 霊源寺** 受付時間 9:00~19:00  
毎日見学受付中

東急目黒線・不動前駅 徒歩7分(桐ヶ谷斎場真向かい)  
〒142-0063 東京都品川区荏原 1-1-2 FAX:03-3494-6319  
TEL:03-3494-1083 大光山霊源寺 検索

### 編集後記

明けましておめでとうございます。

今年は4月に久々の団体参拝旅行が予定されており、非常に楽しみにしております。

10ページでも記しましたが久々に京都に行ってきて、やはり普段と違う景色を見たり空気を感じるのには良いことだと思いました。

さて、次号は5月発行予定です。今号に無かったお檀家様の紹介企画を載せる予定です。それまでは各種SNSで情報発信しておりますので、そちらをご覧ください。

※新善光寺の日々の情報は各種SNSにて公開しております。  
どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。

新善光寺 検索



ホームページ YouTube

新善光寺寺報  
*Hokuen* 51  
北 縁

発行 / 2023年1月発行  
発行責任者 / 新善光寺住職 太田真琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706  
[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] [s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp](mailto:s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp)